２０２０．９．２６　古文書教室資料（利尻富士町教委　山谷）

「旧鬼脇村役場文書にふれる～100 年前のパンデミックを読む」

はじめに

新型コロナウイルス感染症は、世界各地でパンデミックを起こし、現在でもその勢力を維持しながら人間社会に多大な影響を与えている。これまで長い人類の歴史において、感染症との闘いは幾度となく繰り返されてきており、その史実を調査し伝える意義は大きい。約 100 年前に国内でも相当数の罹患者や死亡者を出した流行性感冒【りゅうこうせいかんぼう】（スペイン風邪、いわゆる現在のインフルエンザ）については、各メディア等で取り上げられる機会があることから、本町においても当時の記録が残されていないか、調査を行なった。

手始めに利尻富士町史を確認したが、記載が全くみられず流行が利尻島まで及ばなかったのかと考えたが、鬼脇村役場の行政文書を確認したところ、その概要を知ることができた。大正 8 年については欠落しているが、流行の始まった大正 7 年と収まった大正 9 年の記録があり、宗谷支庁や各学校とのやりとりが残されている。鴛泊村については、行政文書が欠落しているため、学校の沿革誌などを頼りとしている。

また、当時の新聞記事については、北海道立図書館北方資料室より北海タイムスを提供いただき、おもに宗谷管内の状況を具に知ることができた。

⑴鬼脇村の状況

【史料Ⅰ】大正 7 年『衛生雑件』鬼脇村役場

Ⅰ－１．第 55 号

11 月 4 日　宗庶第 782 号「悪性感冒ノ予防ニ関スル件」宗谷支庁

11 月 12 日　告諭第 1 号「予防通知」→各所に掲示

・今春に内地各地で流行した特殊の感冒。

・夏期に病勢衰える→初秋に再発生、学校授業休止あり。

・海外（南アメリカ・北アメリカ）では、「スパニッシュ・インフルエンザ」と呼称。

Ⅰ－２．第 57 号

11 月 11 日　宗庶第 794 号「流行性感冒予防ニ干スル件」宗谷支庁

11 月 14 日　「流行性感冒予防ニ干スル件」村長→鬼脇衛生組合

・予防に干する注意書き（9 か条）→各戸に配付

１．衣服、寝具等着用の際、体温の調節について注意しそれらを時々天日干しすること。

２．人混みや雑踏する場所になるべく立入らないこと。

３．なるべく鼻毛を剃り落とさないこと。

４．話やクシャミ、咳払いの際は、泡沫を飛散させないよう努めること。

５．患者およびその疑いのある者に近づかないこと。

６．発熱や身体に違和感がある者はすぐ診療を受けること。

７．本病患者はなるべく別室に隔離すること。

８．患者の家族や同居者は、うがい薬でよくうがいを行なうこと。

９．患者の鼻汁、唾で汚染された物は、消毒を行なうこと。

【史料Ⅱ】大正７年『教育雑件』鬼脇村役場

Ⅱ－１．第52号

11月6日　宗教第780号「流行性感冒予防ノ件」

・道内札幌方面で蔓延の兆候あり。

・児童生徒に罹患者出た時の予防策（出席停止、隔離療養、必要に応じ一時学校閉鎖）。

・約字符号表添付

Ⅱ－２．第60号

11月11日　「流行感冒予防ニ関スル件」宗谷支庁→村長、学校長

・注意箇条、児童生徒に予防注意を懇諭のこと。

Ⅱ－３．第56号

11月28日　鬼2330号「悪性感冒関スル諸件」、「学校医宛●●に関する件」

11月7日　「悪性感冒ニ関シ調査依頼ノ件」村長→各小学校長

11月6日　「悪性感冒患者調査ノ件」

・目忍路小（在校生190名）：患者なし（11月7日）、6名（11月11日）

・鰊泊分教場（在校生●）：14名（11月9日）

・石崎小（在校生263名＊町史）：18名（11月11日）、34名（11月13日）、37名（11月14日）、37名（11月19日）、10名（11月20日）、6名（11月21日）

＊すべてが悪性感冒に限った欠席ではない。

11月13日　「悪性感冒患者注意ノ件」村長→石崎小・目忍路小・石崎分教場

11月12日　「小学校生徒感冒ニ干スル件」

・利尻尋常高等小学校（在校生415名）：86名（11月5日）、216名（11月12日）

11月12日　「学校閉鎖ニ関スル件」利尻小→村長

・4日間閉鎖

11月13日　「授業休止之件」

11月13日　「小学校授業休止ノ件電報」→宗谷支庁長

・11月12日利尻校200名以上、職員5名患者発生。1週間休校。

11月14日　「流行性感冒ニ関スル件」利尻小→宗谷支庁長

・11月15日から6日間休業。

11月20日　「小学校生徒感冒ニ干スル件」利尻小

・11月21・22日も休止。

11月22日　「感冒ノ為メ学校閉鎖ノ件」村長→目忍路小

11月22日　「公示」

・目忍路小　11月22日から1週間授業休止。

11月22日　「感冒ノ為メ小学校閉鎖ノ件」

・目忍路小：66名罹患。

11 月 29 日　「感冒ノ為メ授業休止ノ件」

・11 月 29 日出席児童調査で、54 名罹患。11 月 29・30 日休止。

12 月 2 日　「感冒ノ為メ授業休止ノ件」村長→目忍路小

・3 日間授業休止。

12 月 2 日　「感冒ノ為メ授業休止ノ件」村長→宗谷支庁長

・11 月 28 日休止満了。

・11 月 29 日出席児童調査で、54 名罹病者あり。引き続き 2 日間（11 月 30 日・12 月 1 日）授業休止。

・12 月 2 日さらに 16 名発生で 70 名罹病。3 日間（12 月 3～5 日）授業休止。

12 月 2 日　「流行性感冒報告」目忍路小校長→村長

・在校生 190 名中、70 名罹病（内訳表あり）。

12 月 6 日　「授業開始ノ件」目忍路小校長→村長

【史料Ⅲ】大正 9 年『衛生雑件』鬼脇村役場

Ⅲ－１．第 4 号

1 月 26 日　「流行性感冒ニ干スル件」村長→各村医

・村医 堀江東馬の回答：村内での該当者なし。今後発生の見込あれば、船舶入港の際、上陸者の健康診断を行ない、一定期間隔離すれば安全であろう。

Ⅲ－２．第 5 号

1 月 14 日　「流行性感冒予防ノ件」宗谷支庁長

・12 月　札幌での患者約 700 人（死者 10 余名）。

・予防液接種勧奨（北里研究所）。

1 月 21 日　「流行性感冒予防ニ関スル件」宗谷支庁長

・大正 7 年 10 月～大正 8 年 6 月：道内罹患者 49 万 1179 人、死者 8507 人（伝染病死者の 10 倍）。

Ⅲ－３．第 8 号

2 月 14 日　「予防液注文ノ件」北里研究所宛

Ⅲ－４．第 9 号

2 月 19 日　「マスク販売所ノ件」宗谷支庁

・マスク（口覆）の販売案内（長倉春治（小樽区稲穂町西 2 丁目））

Ⅲ－５．第 13 号

2 月 28 日　「呼吸器ニ干スル件」稚内実業補習学校長

第 14 号

2 月 4 日　「流行性感冒予防ニ干スル件」宗谷支庁

・予防呼吸器の使用について

Ⅲ－６．第 19 号

3 月 16 日　「感冒予防液注射ニ干スル件」衛生組合各伍長宛

・各地から漁夫入込、患者多数。各部落 1 カ所に場所を定め、予防注射をすること。実費 50 銭（一人 2 回で効力あり）。

第 27 号

4 月 15 日　「流行性感冒予防施設ノ件」＊上記内容と同一

・1 月 20 日　同件について宗谷支庁長より

Ⅲ－７．第 60 号

11 月 2 日　「流行性感冒調査ノ件」

・本村罹患者なし

・10 月 26 日　同件について宗谷支庁長より

⑵鴛泊村の状況

【史料Ⅳ】

Ⅳ－１．雄忠志内小学校沿革誌

雑件　大正 7 年 11 月 26 日　本校児童が流行性感冒に罹り欠席する者多く、総数の約 3 割に当り、なお他に伝染する恐れがあるので、本日より 3 週間臨時休業する。

＊平成 7 年「雄忠志内小学校開校百周年記念誌」

大正 7 年 11 月 26 日（在籍 173 名）　流感罹患 3 割に達し、3 週間臨時休校実施。

Ⅳ－２．鴛泊小学校沿革誌

大正 7 年 11 月 27 日　感冒に罹った児童 95 名。細川村医の診察を受ける。

12 月 2 日　感冒のため欠席する児童 60 名、出席児童中罹病者 121 名。3 日より 9 日まで 1 週間臨時休業。

12 月 10 日　感冒のため欠席する児童 106 名､かつ校下一般同病に罹った者多く、悪性感冒のため死亡する者 2、3 に止まらないため、更に 16 日まで 1 週間休業。

＊平成元年「鴛小百年 鴛泊小学校開校百周年記念誌」

大正 7 年 12 月 2 日（在籍 205 名）　感冒のため欠席児童 60 名、1 週間臨時休業するが、10 日に至って欠席者 106 名の多数に及び再び 1 週間休業する。一般罹患者で死亡するもの 2、3 に止まらず。

Ⅳ－３．大正 8 年「北海道利尻郡鴛泊村勢一班」

衛生：死亡者病類別；流行性感冒 8（全 143 名中）

＊本泊小学校は不明（沿革誌等、記載なし）

まとめ

大正 7 年の状況については、鬼脇村役場の衛生・教育関係資料、北海タイムスから動向がほぼ把握できる。各校の休校期間は、利尻小（11 月 12 日～11 月 22 日）、目忍路小（11 月 22 日～12 月 5 日）、雄忠志内小（11 月 26 日～12 月 16 日）、鴛泊小（12 月 3 日～12 月 16 日）と 10 日～3 週間。

国内で 38 万人という死者を出したにもかかわらず、歴史上のインパクトは弱く見られ、これまで「忘れられた」存在であった。その理由として、１つは第一次世界大戦期で報道等でも社会の目がそちらに向けられていたこと。２つは当時の疾病事情で、明治時代以降流行性感冒以外の呼吸器系疾患で亡くなる方が毎年きわめて多かったという。大正 7 年における流行性感冒による死者は 18 から 30 倍になったが、呼吸器系疾患の全体の死者数は例年の 2 倍程度だった。

大正 8 年の状況は、資料が現状なく利尻島内は不明であり、今後の課題。大正 9 年には、ワクチン接種などが励行され改善、終息に向かっている。

流行性感冒は、日本では 9 世紀（平安時代)、外国では 14 世紀ころから知られ、頻繁に流行を繰り返してきたという。

このパンデミックから 100 年目に新型コロナウイルス感染症が流行しているのは、人間活動に対する警鐘なのか、いずれにしても昨今のコロナ禍の状況も忘れ去られないよう将来に伝えていくことが大事と考えられる。

参考文献

内務省衛生局　1922 年　流行性感冒　国立保健医療科学院ホームページ

小樽市　2006 年　小樽市新型インフルエンザ対策行動計画別冊　忘れられたパンデミック - 北海道におけるスペイン・インフルエンザ惨状記録

内務省衛生局　2008 年　流行性感冒―「スペイン風邪」大流行の記録　東洋文庫 778
＊解説：西村秀一

山本太郎　2011 年　感染症と文明―共生への道

資料調査協力（敬称略）

吉原和夏子（北海道立図書館北方資料室長)、関谷克志（鴛泊小学校長）